

月刊

GPP



Vol.66

令和3年4月号

株式会社
グロースパートナーズ

なかなか無いです、こんな中小企業

桜が観測史上最も早く開花し、GWの頃が見ごろのツツジが咲き乱れ、事務所の近くのふじ棚はもう紫色になっている。アナウンサーが「暖かくなって良かったですね」と呑気なコメントをしているが、明らかに地球温暖化ですよ、これ・・・

さて、セルドロンは長年、京都大学・木村先生、澤村先生と共同研究を継続させて頂いており、そのご縁で文部科学省と外務省の共同事業“SATREPS”にてエチオピアにも事業領域が広がっている。青木あすなろ建設様とのご縁あつてのことだが、これだけでも中小企業においては、なかなかあり得ない境遇だ。

そしてこの度、何と、東京大学・野口貴文先生と共同研究開発をさせて頂くこととなった。東西横綱アカデミアと共同研究をしている中小企業は、まず無いはずだ。しかも、どちらも環境に直結する研究内容で、我ながら誇らしい。野口先生との研究は、安藤・間建設様という大手ゼネコンとのご縁あつてのことであるが、残コンクリートにセルドロンを添加して砕石と同じような状態にし、経時変化でCO2吸収のデータ収集をするのが目的だ。かなり“いまどき”な内容でもある。

安藤・間建設様は、会社全体で環境配慮を打ち出しており、多くのチャレンジをする予算を付けておられるのがとても頼もしい。ESG評価において、ゼネコンのランキングは極めて低い。エンドユーザーと近い距離にあるハウスメーカーは上位にランキングをしているが、ゼネコンはベスト100に2~3社あるかないかの状態。先日、RRC SにてCO2削減の座談会を開催し多くの技術紹介があつたが、実際、流通している技術は極々わずかだ。「出来ることからやっていく」まずはこの姿勢が最も正しいと考えている。

このまま温暖化が進むと、2050年には桜が咲かないかも知れないという話を聞いたことがある。その分かれ道は2030年、もうすぐそこだ。平和ボケの人達よ、暖かくなって喜んでいられるのは、今のうちだけだ。

藤井 成厚

セルドローンの問い合わせが増加中↑↑

■ケースその1

関東のとある現場Xで、生コン車を利用した残コンの改質実験が行われました。この現場は、現場で発生するごみをなくしたいとのことで、様々な対応を検討しているようです。その中の候補にセルドロンがあがりました。生コンプラントの営業時間と現場での施工時間の調整が難しく、最後に生コン車を何台分と発注をしなくてはならないようです。もし、生コン車まるまる複数台余ってしまったときなどの対応にご検討いただいております。試験では、生コン車へセルドロンを添加し高速回転で処理しております。3m³の生コンも均一にきれいに排出されました。



■ケースその2

生コン商社様などからの問い合わせも増加中。生コンやセメントの出荷量(販売量)が減っているためそれに代わる材料の販売を強化しているようです。今までは、あまり相手にされなかった商社様からも、セルドローンの勉強会を実施してほしいと依頼をいくつか頂いております。セルドロンを必要としているお客様へセルドロンが届くのであれば、商社様への説明会も実施していこうと思います。 依頼連絡は土井まで

ポンプ車を活用して生コン打設する現場で採用されました。

この現場は、ポンプ車の洗い水(流動性が高い状態)を現場で排出できないとのことで、セルドロンで洗い水ごと改質し廃棄いたしました。ポンプ車のホッパー下に、養生シートを引いて改質いたしました。多少の攪拌作業がありましたが、ポンプ車で持ち帰ることができない洗い水や残コンを現場で処理することを可能にいたしました。処理後の状態から、今後はポンプ車のホッパーで攪拌することも許可が出ました。



セルドロンに関する疑問質問は営業 土井まで

☎ 03-4405-2642